



卒業生代表挨拶

冬の厳しい寒さも和らぎ、桜の蕾が色づく季節となりました。本日は、私たち卒業生のために式典を催していただきましたこと、心より御礼申し上げます。学長の瀬口先生を初め教職員の皆様にご臨席を賜り、また御心の籠ったお祝いと励ましのお言葉を頂き、卒業生一同感謝の念でいっぱいでございます。

昨年は未曾有の新型コロナウイルスが全世界に猛威を振るい、私たちの生活様式は一変しました。今まで大学に行けば当たり前友人に会えていたことがどれほど幸せなことか実感しました。新型コロナウイルスの感染対応に尽力されている医療従事者等の皆様には心より御礼申し上げるとともに、1日も早い終息を切に願います。

さて、卒業を迎えた今、武庫川女子大学へ入学してから今日までの日々を振り返ってみますと、瞬く間に毎日が過ぎ去ったように思います。入学当初は生活の変化に戸惑うこともありましたが、先生方のご指導のもと、恵まれた環境で学業に専念することができたと実感しております。学年が進むにつれ専門性が増し、学ぶことの面白さに魅了されていったことも良い思い出です。疑問や悩みを投げかけたとき、先生方は時間を割いて的確なアドバイスをくださいました。最後の卒業論文完成まで、根気強くご指導して下さったことには大変感謝しております。

そして、私の大学生活を語る上で欠かせないことは、多くの友人との出会いです。思いがけないことからいつの間にか仲良くなり、私の学生生活を彩ってくれました。卒業後の進路選択の際には、不安や悩みを語り合い、支え合ってきました。教員採用試験に向けて夜遅くまで共に勉強したこと、ランチを食べながら笑い合ったこと、夢や目標を語り合ったこと、ときにぶつかり合ったこと。共に過ごした時間は、何事にも代えがたい大切な思い出です。春からは、今までのように頻繁に会えなくなりますが、いつまでも私にとってかけがえのない存在です。

大学の最終学年、4年次には大きな岐路に立たされ、初めて真剣に自分の進路と向き合いました。「自分はこういった大人になりたいのか、どういう人生を歩んでいきたいのか」を何度も自問しました。そして4月から各々が自分で決断した道を歩んでいきます。私が大切にしている「置かれた場所で咲く」という言葉があります。この先の長い人生、思い通りにならないこともたくさんあるでしょう。しかしどのような状況でも、それぞれが持つ強みを置かれた場所で存分に活かし、自分の花を咲かせていきます。そして武庫川女子大学が掲げるビジョン、「一生を描ききる女性力を。」を実践し、社会に貢献すべく、日々努力を重ねてまいります。

本日をもって本学を去ることに、名残惜しさは尽きませんが、多くの方のおかげで本日を迎えられることに感謝申し上げます。ご指導いただいた先生方、学生生活を様々な形で支援して下さった職員の皆様、多くの時間を共有してきた友人、ずっと見守ってくれた家族、これまで支えて下さった全ての方に心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。

最後に、今後の武庫川女子大学の益々の御発展と、この場にいる皆様のご健康をお祈りいたしまして、卒業生代表挨拶とさせていただきます。

令和3年3月21日

武庫川女子大学

文学部／健康・スポーツ科学部

卒業生総代 文学部英語文化学科

土居 未波